

# 令和6年度 第4回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時:令和7年3月11日(火)18時00分～

■会 場:オンライン(Zoom)

## 1. 報告事項

(1) 業務報告(令和6年12月～令和7年2月)について【資料1、2、3】

(2) 業務予定(令和7年3月・4月)について【資料4】

○事務局より、(1)～(2)について資料を用い説明を行った。

【副委員長】毎月同じボランティアを必要とする人とボランティア活動者は固定しているのか、またはランダムにマッチングしているのか教えて欲しい。

【事務局】1対1の活動の場合、必ず事前に顔合わせをおこなっている。毎回違う方と顔合わせをおこなうことは難しい。また、ボランティアさんをひとりに決めてしまうと都合が合わなかった場合紹介できなくなってしまう。そのため数人のボランティアさんで支援してもらっている。

## 2. 審議事項

(1) 令和6年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について【資料5】

## 3. 協議事項

(1) 令和7年度予算・事業計画について【資料なし】

(2) 委員選出について【資料6】

【事務局】委員のうち1名から体調不良のため退任の申し出があった。【資料6】の5名のうち2名から承諾の返事もらっている。

(3) 夏!体験ボランティアの報告から考える今後の取り組み(意見交換)【資料7】

【事務局】4月に予定されている校長会に出席を希望している。日程が決まり次第連絡をもらうことになっている。昨年の校長会では短い時間の中で「夏!体験ボランティア」のチラシ、ポスターなどで児童に向けた広報の協力をお願いをした。また、西東京ボランティア・市民活動センターの機能として、障がい当事者やグループを紹介し総合的学習の授業に協力していることを伝えた。委員からアドバイスをいただきたい。

【委員】ボランティアセンターがどのような機能を持っているのかを説明し、各学校の要望をアンケートで取ることもできるのではないかと。学校によってはボランティアセンターのメニューを示されて動く学校もあれば、主体的にこういうことがあったらと思う中で、ボランティアセンターにつながれば良いと考える学校もある。同じことを繰り返すが、ボランティアセンターができることを伝えるとともにアンケートで要望を集めてはどうか。

【事務局】アンケートについては想定していなかった。教育課程でボランティアを取り入れてもらうためのアンケートと考えて良いか。

【委員】それで良い。期限は決まっていないのでいつでも良い。

【事務局】先生方の声を直接聞けるありがたい機会である。

【副委員長】アンケートを取る際に紙で答えてもらうより、QRコードを読み取ってもらいオンラインで答えてもらうのはどうか。ニーズに基づいてボランティアセンターが提供できること、できなくても市内の福祉施設にすぎ対応してもらうことができるのではないかと。また、ニーズを知ったうえで考えていくことも良いのではないかと。ボランティアセンターは何ができるのか、どんなことをおこなっているのか事例があれば答えやすいのではないかと。

【事務局】アンケートを作成し校長会でお願いしたい。4月の校長会では夏！体験ボランティアの周知をおこなっていく。次に、教育課程でボランティアセンターができることについては、今までも総合学習で関わっているが、更に学校との連携を深めていくことを目的とする三つの案を示したい。一つ目は特技ボランティアの活用である。ボランティアセンターには様々な特技を持った人が登録している。例えば音楽の授業とは別に楽器の演奏ができる人を紹介し音楽に触れてもらう。二つ目は、子どもたちにとって居心地の良い居場所づくりをおこなってもらう。また、子どもの苦手を減らし得意を伸ばす勉強やスポーツ、趣味の手伝い、子どもたちの探究心を伸ばす手伝いなどが出来たら良い。三つ目は総合的な学習、ふるさと探究学習への協力として障がい当事者やボランティア活動者、ボランティアグループなどの紹介をおこなう。その他では、学校行事の準備の手伝いや特別支援学校へ通う児童生徒の付き添い、いじめのない学校生活を送るための見守り。町の歴史に詳しい人の紹介や先生方が望む人材を伺うことでボランティアセンターが積極的にコーディネートすることができるのではないかと考える。また、以前おこなっていたボランティアセンター職員が学校に出向きボランティア活動の話をする 것도できる。学校内でボランティア活動に触れる機会として古切手の整理を体験してもらったり、ボランティア部の担当教諭と話し合い、どのようなことができるのか一緒に考えることもできる。校内のコーディネーターとつながることで情報が入ってくることもある。大学生についてはボランティアに興味関心を持っている学生が多くいるが活動に至らない。そのような学生が一歩踏み出すためのアシストをしていくこともできれば良い。ボランティアセンターが学生の身近な相談窓口になれることを知ってもらい、取り組んでいけたら良い。学校内にボランティアが入ることにより学校との良い関係を築き、双方にメリットがあるのではないかと考える。

【副委員長】ボランティアと教育をどのように結びつけるか、活動者と受け入れ側の双方向に相互に得るものが無いと続きづらいのではないかと。意見をもらいたい。

【理事】学校への働きかけやアンケートなど全体的に納得する。困りごとのアンケートなどを取るのも良いのではないかと。施設ではこんなことに困っているという声を吸い上げ、それならできるという人をコーディネートしていくのも良いのではないかと。

【副委員長】市内の施設から小・中学生と一緒にやりたいというニーズが出てくるとマッチングしやすいのではないかと。

【委員】困りごとのアンケートは受け入れ側が発信すればうまくマッチングできるので良い。

【委員】学校の先生やボランティア担当の方にボランティアセンターを知ってもらうことが最初である。防災関係のボランティア団体は小学校で「まちなか先生」として体育館でハザードマップを使用し自分の住んでいる場所を示してもらい、どのような危険があるのか、一番近い避難所はどこかなどの防災授業をおこなってきた。風水害からの避難に必要な知識を学べる「東京マイ・タイムライン」を教材とし天気予報や空を見ながらどのように判断するか、学校が避難所になった場合は何か手伝うことができるかなど小学5年生くらいになると理解し、話し合うことができる。その子どもたちが年を重ね、災害やボランティアに対して感受性が出てくるのではないかと期待する。また、大学のボランティアセンターと連携し防災イベントに協力してもらっている。

【委員】高齢者施設ではどのようなことをやっているのか子どもたちに知って欲しい。高齢者疑似体験や車いす体験は近隣の小学校から依頼があり行っている。教育課程の中で高齢者を理解してもらうための話や実際に見てもらおう機会を作るきっかけがあると良い。

【副委員長】市外の情報は何かあるか。

【委員】関わっている他の自治体での福祉教育では、ボランティアセンター職員の講義から考えてもらう授業をおこなっていた。車いす体験のような福祉に特化せず、自分たちが抱えている生きづらさについて考えてもらう内容であった。福祉教育を考えるときに当事者との関わりを入れてもらうと良いと思う。全国社会福祉協議会のオンラインサロンに出席した際、当事者の話が心に残った。子どもの頃に体験したことが、将来自分が地域社会の一員であるという意識につながるという話があった。ぜひ当事者との関わりを入れてもらいたい。

【副委員長】大学の社会福祉学科ではそのようなフィールドで実践者として働くことになる。学生は社会経験がないのでハードルを低く、参加しやすいところからはじめの一步を踏み出せると良い。経験を積み重ねることにより自分の興味関心のある分野を発見する機会になる。フィールドに出るやり取りをしていく中で、市民にも大学に来てもらい協働したものの中から活動していけると良い。大学生は必ずしも西東京市民とは限らない。長く継続的にそこで人生を送る可能性は低い。卒業後に学生のメンバーが変わっても活動が継続できる仕掛けが出来ていないと途切れてしまう。学校と市民の連携の中でささえあえたら良いと考える。

【委員】小学校の学校教育でボランティアと関わるといことには違う視点もあると考える。学校教育をより豊かにするためにボランティアに支援してもらっている流れがある。一方で子どもたちは学校教育の中でボランティアをしているという自覚、当事者としての自覚という視点もあるのではないかと。例えば春夏秋冬、全校生徒で種から育てた花を地域の事業所や教育機関などに贈呈する花大使として花外交をしているがこれもボランティアである。子どもたちがボランティアセンターに登録をすれば自覚できるのではないかと。

【副委員長】多様な関わり方のハブとしてボランティアセンターが機能することが今後の可能性につながるのではないかと。

【事務局】【資料7】で案を提示したが更に意見をもらいたい。

【理事】大学生へのボランティア情報の提供に対しては SNS を利用した周知が効果的ではないかと。

【事務局】SNS の活用については学生相手には外せないと考える。

【副委員長】ボランティアする側で話してきたが、まだ手が付けられていない地域課題や福祉課題について考えることも大事ではないかと。資料の中に街の歴史に詳しい人がいるとあるが、郷土史を深堀しながら地元で愛着を持ってもらうという意味合いもある。過去と今があり、明るい未来だけではなく手を付けて行かなければならない未来もある。みんなで考えるという集うテーマがあっても良い。

【事務局】地域課題については施設からの困りごとだけではなく、地域で生活している人の困りごとでも聞いていくことも考えていかなければならない。ボランティアセンターが中間支援センターとして何ができるかと議論してきた中で、教育の分野で学校に提示していけるものができてきた。学校へアプローチしていきたい。地域課題についても取り組んでいきたい。

## 4. その他

(1) 次回 運営委員会日程について

■日時: 5月20日(火) 18:30

■会場: Zoom

(2) その他

配布資料

資料 1: 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和6年12月~令和7年2月)

資料 2: ボランティアコーディネート状況月次報告(令和6年12月~令和7年2月)

資料 3: ボランティアコーディネート実績表

資料 4: 西東京ボランティア・市民活動センター事業業務予定(令和7年3月・4月)

資料 5: 令和6年度第3回運営委員会要点記録(未定稿)

資料 6: 委員選出について

資料 7: 夏!体験ボランティアの報告から考える今後の取り組み(意見交換)

参考: ぼらんていあ倶楽部第129号(令和7年2月15日発行)